



地位も名誉も美貌も兼ね備えていた幸福な王子。亡くなった後に、数々の宝石と金箔で飾られ、塔の上で銅像になった王子は、生前は気づきもしなかったのですが、町に暮らす多くの貧困の人々を知って涙を流して悲しみます。

そんな中、王子は自分の像の下で羽を休めていた一羽のツバメに、自分の宝石や金箔を貧しい人たちに渡してほしいと頼みました。ツバメは王子の願いを叶えるため、あちこちに飛び回ります。

互いに信じあい親しくなった二人。しかし、そのうちに王子は宝石も金箔もすっかりなくなりました。またツバメはとうとう目指していたエジプトに行くこともできずに死に、その瞬間、王子の鉛の心臓が二つに割れてしまいました。

社屋から通りに出て左右を見渡すと、車の通行や人の往来がほとんどありません。渡り鳥のツバメも、今年は霧困気がちよつと違つて感じてはいるはずですが、新型コロナウイルスによる国の緊急事態宣言を受け、社会の活動が収縮し困窮している人の多い中、巣で待つ子供たちのために、せつせと餌を運んでいるツバメを見ながら、イギリスの劇作家、オースカー・ワイルドの書いた童話「幸福な王子」を思い出しました。

幸福ということ

王子の像は、街の人々の自慢でしたが、市長たちはみずぼらしくなった王子と、あのツバメと一緒に捨てたのです。神様が天使に「町でもっとも貴いものを二つ持つてきなさい」と命じました。天使は、王子の鉛の心臓とツバメの死骸を持つていくと、神さまは次のように言いました。「よく選んできた。天国の庭園でこの小さな鳥は永遠に歌い、黄金の都でこの幸福の王子は私を賛美するだろう。」

日本がウイルス感染防止の自粛要請のなか個々の行動が制限されることで、普段とは違う立場から自分の周りや世の中を見ることができる点において、私たちは銅像の王子みたいです。

私たち一人一人も王子のように金や宝石を持つていて、それに気づいて他人様にお分けすることの大切さを、「幸福な王子」は説いているように思います。

併せて、王子とツバメのように互いを信頼し合うことの素晴らしさも伝えていきます。

コロナのあとに、インターネット上のサービスなどを賢く利用しながら、人と人との心のつながりが、さらに豊かになるように心がけたいと思います。

株式会社溝口祭典 溝口勝巳

お盆セミナーのご案内

「なつかしい顔。おもいだす。」

私たちは何の疑いもなく、お盆にはご先祖様を迎え、お彼岸にはお墓参りに出掛けます。このような事柄は幼い頃から自然と身につけてきました。日本の大切な文化を守るためにも、いつまでも続けてゆきたいものです。

さて、それでは何故、お盆のこの時期にご先祖様を迎えるのでしょうか。多くの食べ物をお供えすることはどういう意味を持つのでしょうか。お盆の飾り付けをする必要のないというご宗旨は？ などなど、さらにお盆誕生の歴史や古来の習俗に目をやると、お盆の飾り方だけでなく、お盆の過ごし方も少し意味深いものになってまいります。

当日は『お盆』そのものの意味合いや、飾り付け方、さらに棚経等、お盆に関連する事柄についてご案内をいたします。また、実際にお仏壇での飾り付けや精霊棚もご覧いただけます。ご参加は無料ですので、どうぞお気軽にお越しください。

日時： 第1回 6月20日(土) 午前10時半～12時まで
第2回 6月30日(火) 午前10時半～12時まで

場所： こすもす家族会館 (八王子市本町6-2)

人数： 各回10名

参加ご希望の方は、お電話にて事前にお申し込みください。

■お申込み・お問合せ先

株式会社 溝口祭典 042-642-0921

【編集後記】
もともと日本人の挨拶は、キスや抱き合うことなく離れてお辞儀をしますし、また、清潔好きで、マスクの着用率が高く、さらに靴を脱いで家に入る生活様式も、コロナ感染防止に有効な気がします。

新型コロナウイルスが終息した後に、社会環境や生活、様々な業種において、一つでも多くの改善があれば何よりです。さて、表紙で取り上げたオースカー・ワイルドの「幸福な王子」ですが、機会がありましたら全文をお読みください。私の稚拙なまとめではくることがのできない深いお話です。

コロナ禍の後に、世の中が童話の善行ようにあたたかく、皆が物心共に豊かで仲よく暮らせるように祈りたく思います。



植物と遊ぶ 植物と暮らす

大谷知久 第14回

植物の香りというものは、エッセンシャルオイルのように植物から抽出したものでだけではありません。風に乗って漂ってくる花の香り。何も手を加えない自然の植物の香りです。

各地のハーブガーデンでは植物の香りの楽しみ方を教えてもらえます。花の香り、葉を触った時に感じる香り、ハーブティーやポプリの香りなどたくさん楽しめ方があります。もちろん香りの楽しみだけではなく、ハーブには花が綺麗な種類も多く、見て楽しむこともできます。ケーキの上に乗っているミントも、茎の部分があるものでしたら、水に浸けておくだけで簡単に根っこが出てきます。

〜風が運ぶ植物の香り〜

ハーブガーデンへ ようこそ！



- オススメのハーブガーデン
- * 大多喜ハーブガーデン
千葉県夷隅郡大多喜町小土呂 2423
Tel.0470-82-5331
 - * たんばらラベンダーパーク
群馬県沼田市玉原高原
Tel.0278-23-9311 (夏季のみ営業)
 - * 松田山ハーブガーデン
神奈川県足柄上郡松田町松田惣領
Tel.0465-83-1228 2951

生のハーブの香りは傍を通るだけでも感じるができます。軽く撫でてあげるとより良い香りを感じる事ができるでしょう。くれぐれも揉みつぶさないように丁寧に触ってあげてくださいね。お近くにハーブがある方は是非試してみてくださいね。

さて、ご自宅のお庭やプランターで育てようと思うとき、どの植物を植えるか良いのか悩みませんか？

水をあげるのが得意な方はミント類を。ついついほったらかしにしてしまいう方にはローズマリーを。お庭に地植えできる方は、それほど種類を選ばなくても大丈夫です。ハーブはもともと痩せた土地に分布しているものが多いため、地植えにすれば自然に繁茂し、大きくなっていくことでしょう。

田んぼギャラリー 1





こもれば読んで、ハワイに行こう！

太平洋上で宇宙に一番近い場所 ハワイ島マウナケア



すばる望遠鏡（左端）

前回に引き続きハワイ島を、その中でも特におすすめの「マウナケア」をご紹介します。

ハワイ語で、「マウナ＝山、ケア＝白い」の意味で、冬になると山頂が雪に覆われることから、名づけられています。高さは四二〇五m、ハワイ諸島の中で一番高いことに加え、太平洋上でも一番高い山です。山裾にあたる海洋底から測ると、一〇二〇三mの高さがあり、エベレストを抜いて世界で一番高い山といわれています。山頂付近は、世界十一か国の研究機関が計十三基の天文台を設置し、日本の国立天文台の「すばる望遠鏡」もあります。街から遠く離れた空気が澄み、人口の光の影響がないこと、年間晴天日が三百日というのが、多くの天文台がある理由だそうです。

太平洋上最高峰のマウナケアの山頂付近には、なんと三時間ほどのドライブで到着します。富士山より高い山に車で？と驚きましたが、道路は舗装されているのでレンタカーでも行けます。ただし付近の道路は不測の事態での保険が適応されないのので、ツアーに参加するのがおすす

め。

いきなり山頂行つて高山病にかかるリスクを減らすため、必ず途中で休憩を入れます。二七七五m地点のオニヅカ・ビクター・センターでは、マウナケアハレアカラ周辺とここにかない貴重な植物の銀剣草を見ることがお忘れなく。開花は数十年に一度なので、花が咲いているのを見るのができたら幸運です。

今回の目的、山頂でのサンセット。遮るものがない太平洋最高峰から見る夕陽は、本当に美しく、燃えるようなオレンジ色からピンクへ、そして日没に向かって刻一刻と変化する光をずっと見ていたいと思うくらい素晴らしいです。（実際にはすごく寒いので、ずっといるのは辛いのですが…）

日没後は山麓での星空観測。無数の星々の中、北斗七星がひときわ大きく見え、宇宙に近い場所を実感できます。満点の星空の下で聞いた「地球も私たち人間も、大きな宇宙の営みの中で生かされています」というガイドさんの言葉が、美しい夕陽や星空と同じくらい印象に残りました。

伊藤 恵里子（第八回）

八王子・フードバンク・子ども食堂

フードバンク八王子 代表理事・國本康浩 (第8回)

この原稿を書いているのが、四月二十八日。日本政府が新型コロナウイルスの影響で「緊急事態宣言」を発令してから、約二十日余りが過ぎました。しかし、まだ先は見えません。おそらく、この宣言は、終結予定の五月六日以後も解除されることはないでしょう。みなさま、如何お過ごしでしょうか？

新型コロナウイルスの衝撃

年が明けて、今年という一年が、これまで未曾有の事態になるとは夢にも思っていませんでした。日本は、いや世界は、これまでに経験したことがないような状況下にありません。身近でも、自分の目を疑うような光景を見ることがあります。平日の午前九時、JR新宿駅の中央線ホームが、ほぼ無人状態になっています。本来であれば賑わうはずの土日のJR八王子駅構内も、ほぼ無人状態です。これは、映画のロケではありません。まぎれもなく、私たちが直面している現実なのです。



緊急事態宣言の「効果」

フードバンク八王子にも「コロナで仕事を失って(あるいは減らされて)途方に暮れている」という方々の来所が、急増しています。それは、パートで働く母子家庭のお母さんたちや、非正規の方々です。今回の緊急事態宣言は、彼らを直撃しているのです。それだけでは、ありません。

つい先日、来られた方は、八王子の中心市街地で飲食店を営まれていた方でした。彼は、失業ではなく、廃業したのです。もはや、無理だと。雇用されている側ではなく、これから確実に、雇用している側、つまり事業者の方々も追い詰められてゆきます。

仮に、緊急事態宣言が解除されたとして、では、飲食店など、かつての賑わいを取り戻せるでしょうか？この「三密」が禁じられている状況下で。

もう無理なのです。私たちの社会は、その経済的な苦境は、もはや、取り返しつかない段階に足を踏み入れてしまった。そう思わざるを得ません。

「コロナに負けるな！」 応援プロジェクト

このような、余りに深刻な状況を目の前にして、私たちは「八王子食堂ネットワーク」を主体とする一つのプロジェクトを起動しました。言うまでもありませんが、私たちは何の力もありません。そこが、つい最近、八王子市仏教会さま、善龍寺さま、そして他の有志の方々から、貴重なご寄付を頂いたのです。これを原資として、約一五〇世帯を目標、一人親世帯の方々を中心として食料配布を行うプロジェクトを立ち上げることができました。しかしながら、困窮される方は、これからまだ増えていくのは確実なのです。どうか、皆様方のご助力を賜ることができれば幸いです。よろしく
お願い申し上げます。



これからは、まだまだ増えていくのは確実なのです。どうか、皆様方のご助力を賜ることができれば幸いです。よろしく
お願い申し上げます。

くにもと やすひろ / 2016年6月、一般社団法人フードバンク八王子を設立。以後、実に様々な人たちに支えられながら、川久保美紀子と小島明子と共に毎日を走り回っている。八王子の地に「地域共生社会」を実現することを夢見ているが、ただの夢想家のつもりではなく、徹底したリアリストの目で、抽象論ではなく具体的にどのような地域社会を構想すべきか、そもそも「我々は果たして共生社会に耐えられるのか？」との自問自答を繰り返している。この夢が、現在のヨーロッパやアメリカの如く、悪夢へと変貌しないことを祈るばかりだ。



はちおうじっ子のコロナに負けるな！ 応援プロジェクト

